

## 原材料動向・供給状況に関するお知らせ①

原材料をとりまく世界的な流れ

時期	事案	物量への影響	供給状況	原材料コスト
2020年11月～2021年5月	アメリカ大寒波	アメリカ由来の原材料、需要と供給のバランスの崩壊	原材料の製造設備が破損し、フォームジュールの発動	原材料減の為、アメリカ由来の材料の高騰化
2021年3月頃	世界各国での財政金融両面からの景気対策	需要の急回復により物流の混乱に拍車がかかる	供給不足による原材料の供給制限	原材料相場が上昇
2021年6月	中国が正式に外需から内需へ方向転換	コンテナ不足、コロナによる人員不足により船便遅延	物流によるコストの増加	物流によるコストの増加
2021年9月	中国電力不足 VOC 排出規制による工場の停止	塗料製造の主原料である中国由来の酢酸エチル、酢酸ブチルの製造数制限。	非常にタイト	原材料相場が大幅に増加
2021年10月	各樹脂メーカー、添加剤メーカー、主原料由来の値上	中国電力不足が金属珪素及び黄燐由来原材製造を制約	一部の原材料がタイト	主原料自体の価格転嫁による2次値上げ、3次値上げ、4次値上げ
2021年11月	海運港湾の混乱、物流渋滞	供給遅延が続いている	欧米、中国の港湾混乱続き原料供給に支障	物流コスト高騰で原料費上昇続く
2021年12月	物流混乱の悪化	欧米原材料に中国起因の供給制約拡大	半導体向け等、他業種の需要増に伴う供給逼迫続く	鋼材値上りに起因した容器価格改定
2022年1月	物流の混乱続く	納期遅延による原材料在庫の逼迫	輸入原料の納期延期が常態化	輸入原料の物流費アップ
2022年2月	ロシアによるウクライナ侵攻による混乱	天然ガス利用国による産油国への見直し	ロシアの領空内飛行禁止等で、海路、空路に影響	原油価格高騰、原材料によっては供給制限となる可能性があり、あらゆる原料が近年みない水準となると予想
2022年3月	各国の制裁	物量への様々な影響の懸念	半導体などもタイト。自動車業界も一部停止を余儀なくされる	アルミ系価格の高騰、工場の停止。 ロシアのガス供給懸念で欧州品コスト増。
2022年3月	円安 (120円/\$)			輸入原料の価格上昇
2022年3月	中国ゼロコロナ政策によるロックダウン	供給遅延の発生	中国国内輸送、港湾混乱続き原料供給に支障、遅延	

時期	事案	物量への影響	供給状況	原材料コスト
2022年4月	ロシアによるウクライナ侵攻の影響拡大	ロシア、ウクライナ原産原材料を中心にタイト感	欧州からの輸入原材料の供給遅延	チタン・アルミ・亜鉛などの鉱石及び天産油、原油・ナフサの高騰影響が原材料に波及。
2022年4月	円安による輸入品の物価の上昇	石油関連製品、ナフサなど高騰。	3月4月トルエン自体供給制限、タイト感。	価格高騰高止まり。
2022年5月	米国西海岸労使交渉によるストライキ	供給遅延の発生	一部の添加剤、樹脂、顔料の輸入に影響	
2022年5月	中国ゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻、円安の影響継続	欧州産の原材料へのタイト感拡大	中国、欧州産原料の供給遅延	樹脂、顔料、溶剤、添加剤、容器、輸送費、副資材の価格続騰
2022年6月	円安進行 137円/\$			為替変動を理由とした原材料値上げ
2022年6月	鉄鋼材価格が高騰。缶、ドラム容器の要請	日本国内の鋼材の大本が基準価格相場を改定。物量はやや減少の兆し	供給は現状問題なし。	年末に向けて大幅なコスト増が行われる可能性が高い。
2022年6月	資源高、エネルギー供給不安、製造業における在庫増加	中国ゼロコロナ、ロシアのウクライナ侵攻が安定的輸入の障害。	欧米でのエネルギー供給不安が原材料供給に影響	あらゆる原材料で4-6月に、これまでの値上り分を上回る上げ幅の値上げ強行。
2022年8月	台湾周辺での中国軍の軍事演習による懸念。	台湾系の品目に現状は影響は無いが、軍事演習が長期化すると、タイト化する兆し	供給は現状問題なし。遅延の懸念は残る。	原材料、高止まりの傾向を一旦見せているが、タイト化すると、再度高騰する懸念を残す。
2022年8月	中国各地で電力の供給制限、異常気象により水不足が欧州、中国を襲う。	ライン川や長江の水位低下で物流停止	欧州、中国における工場稼働停止、エネルギー供給減少	エネルギーコスト増大、円安による価格高騰。
2022年9月	国内原材料メーカーの設備老朽化に伴うトラブル、事業撤退	定修明けのトラブルや、設備不良、設備老朽化により事業撤退の動きが加速している。	あらゆる原料において今後益々国内の供給先が限られてくると予想。	安定した原料確保が困難となり、採算是正も含めた高騰が進むと予想。
2022年9月	定修の重複	トルエン・キシレンの供給量の低下による品不足	10月中旬まで供給不可及びタイト。	需要のひっ迫による高騰
2022年9月	円安進行 ¥144/\$			円安による輸入物価の上昇

時期	事案	物量への影響	供給状況	原材料コスト
2022年9月	ドイツ パイプラインのガス漏れ	生活向けのエネルギー確保が優先、新規の生産が困難		
2022年10月	資源高、エネルギー供給不安	ヨーロッパ各メーカーの減産による原材料のタイト感拡大	原料により納期遅延や供給制限	エネルギーコストのさらなる増大による原材料の高騰
2022年10月	円安進行 一時¥150/\$ 超え			円安による輸入価格の高騰